



ニッポン
ドクター和の

臨終図巻

「うちの孫はね、このコマージヤルの歌を聴かせるとすぐに寝てくれるんです」と在宅患者さんがよく言っていました。それが、誰でも一度は見たことのある「ピアノ売ってちょうだい!」のアレ。一度聴いたら忘れられない、高くて艶のある彼の声は、赤ちゃんと心地のいい440Hzの音域だったそうです。

俳優でコメディアンの方津一郎さんが、10月14日に都内の自宅で亡くなったことが分かりました。享年89。死因は慢性心不全の発表です。今年の夏は友人とゴルフに出かけるほどお元気にされていたようですが、9月から体調を崩されていたとのこと。

死因としてよく書かれる「心不全」ですが、これは特定の病名ではありません。心臓になんらかの疾患があり、心機能が弱って血液を十分に送り出せなくなった最終

330 俳優 方津一郎



長尾和宏(ながお・かずひろ)。医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長としてリビング・ウィルの啓発を行う。映画『痛くない死に方』をはじめ出版や配信などさまざまなメディアで長年の町医者経験を活かした医療情報を発信する傍ら、ときどき音楽ライブも。

的な状態をこう総称しています。心不全には急性心不全と慢性心不全の2種類あることは皆さんもご存知かと思いますが。突然発症する心筋梗塞や不整脈によって、短期間に進行するのが急性心不全。高血圧や弁膜症、心筋炎等により長期間にわたって心不全状態が続

く病態を、慢性心不全と呼びます。疲労感や不眠、冷えなどの初期症状から始まりやがて動悸、息切れや呼吸困難、浮腫などが起きてきます。高齢者が急に体重が増加したり少し歩いただけでも息が苦しくなるようになったら、すぐに受診をしてください。しかし高齢になればなるほど、上記のような自覚症状が現れず、多少の息切れも「歳だから仕方ない」で片づけがちで、放置されたまま重症化することもままあります。しかし方津さんのように、平

均寿命を超えて90歳近くになった慢性心不全は、老衰の一種であるという見方もできるでしょう。方津さんはここ10年ほど、仕事のオファアをほとんど断っていたそうです。ご自身も脊柱管狭窄症などの病を抱えながら、奥様の自宅介護をしていたからです。あるインタビューで方津さんは、こんなふうに話しています。「一番苦労したのが、ママ(妻のこと)をお風呂に入れることでした。抱っこして、浴槽に入れるだけで、汗だくになる。『人に頼めたらこんなに楽だろう』と考えたことは何度もある。でも、そのたびに『僕以外の人に入浴させられるだろうか』と、心苦しさが増した」

妻の介護に専念した晩年

老々介護で大事なものは「絶対に暗くならないこと」とも話されています。80代の男性が、介護サービスの手を借りずに妻のお風呂も食事の世話もひとりで行っていたという事に驚きました。今頃ご夫婦は、元気な若い頃の体に戻って3年ぶりの再会を果たしてこの世でよう。